

発表梗概作例（発表用）

西洋史学演習「近代史研究における帝国論」
授業名など、発表の
場所を記す。

ドイツ近代のなかの原理主義

発表の表題を記す。

200x年6月26日
西洋史学専修3年 蛭池駅子

発表の年月日、発表
者の名前。

はじめに

左右の政治的尺度の見直し
原理主義 新しい座標軸として

発表の内容を簡潔に記す。文章
を書くより、キーワードを多用
し、記号などを適宜使用すると
よい。

I. 保守主義的思考としての原理主義

両義的現象としての民族至上主義と生改革

L. Klages P. Förster R. Wagner

研究史上の評価の分裂

原理主義：美化された過去に理想的社会を見てとり、これを「原理」として現実の社会
的行為の規準とする思考パターン

思考パターンとしての保守主義→思考内容としての保守主義

- ◆ 普遍主義への反発
 - ◆ 人間理性を越える超越的権威の信奉
- 反啓蒙としての民族至上主義と生改革
原理としての「民族」と「自然」

箇条書きを多用す
るとよい。

II. 政治的両義性

原理主義による帝政ドイツの現状批判

O. Böckel：「資本主義の廃絶」

原理主義の現状批判：「近代の過剰」

市場化の終着点としての高度資本主義

「質」の経済政策⇔市場での数量的普遍主義

- ◆ 「国民的労働の保護」
- ◆ 経済政策の「倫理化」

余白は多い目にとる。聞き手
が書き込みできるように。

III. 原理主義の連続性

世紀末の原理主義成立の契機：古典的自由主義の破綻

ー前身としてのプロイセン正統保守主義

L. Gerlach H. Wagener J.K. Rodbertus L. Stein
ナチズムにおける生改革
現代のエコロジー運動
環境意識と反普遍主義の思想的親近性
「緑」と民族のエコロジスト H. Gruhl A. Mechttersheimer A. Haussleiter

IV. 宗教復興の時代

第一次グローバル化の時代

市場化の拡大と浸透

宗教復興の現象

巡礼、聖母・聖人信仰、宗派的団体の結成、海外伝道

宗教としての原理主義

- ◆ 民族の精神的再生の条件としての宗教 (P. de Lagarde)
 - ◆ 菜食主義: 「神によって約束されたメシア」(G. Schlickeysen)
- ドイツ近代の宗教社会学的状況: プロテスタンティズムの溶解
宗教的真空を充填するもの

おわりに

啓蒙主義、自由主義、資本主義の伝統: 歴史のメインルート?

啓蒙的普遍主義と原理主義の交差による座標系

参考文献

1. Wieland Wagner, Die konservative Revolution, München 200x
2. 石橋三平「ワイマール期の環境思想」待兼山江『ヨーロッパ近代におけるエコロジーの史的伝統』浪高出版会、200x年
3. 豊中市郎『生改革の記憶』浪高出版会、200x年
4. 待兼山太郎「フランス近代史における宗教ルネサンス」『西洋史学』891、200x年

本発表を作成するにあたって参考にした文献を一覧にして挙げる。筆者名の五十音順あるいはアルファベット純などで配列する。